



学校だより

開校記念日特別号

大田区人権教育研究協力校

「みんながいる わたしがいる
さしのべる 生きている」

令和3年11月22日

大田区立糀谷中学校

校長 小島 宏一郎

自ら学び考えることができる生徒

感性豊かで思いやりのある生徒

心身ともに健康な生徒

開校記念日（11月24日）にちなんで

～祝 開校68周年～

< 校章の由来 >

稲穂の図案は、糀谷の地に由来しています。

日本人の生命と、工業地帯としての生産発展と勤勉を象徴したものです。

< 開校にあたって >

昭和28年、この年はテレビ放送が始まった年でもあります。そして、6月19日に、糀谷中学校の新設が認可されました。当時、東蒲中学校と羽田中学校の一部の生徒は、教室が足りなかったため、東糀谷小学校で授業を受けていたそうです。

9月1日に糀谷中学校が新設され、生徒数27名でスタートしました。また、二部（夜間学級）は羽田中学校内で開級し、生徒数24名でスタートしました。11月14日、学区変更により、東蒲中学校と羽田中学校の2校から748名の生徒が糀谷中学校に編入しました。

11月24日に校舎が完成し、この日を開校記念日としました。校章は、10月30日に決定し、現在のものが受け継がれてきています。

< 地域の方の支援 >

糀谷中学校は、地元有志の皆様のご協力、ご支援があつてはじめて開校できました。具体的には学校の土地や、施設・設備の点にいたるまでです。

また、当初糀谷中学校には体育館はなく、土地を所有していた13軒の皆様方のご協力があつて現在の場所に体育館がつけられました。協力が

なければ、校庭内に建設することになり、狭い校庭となっていたかもしれないからです。

< 開校前の状況 >

本校設立の計画が決定された当時は、糀谷中学校のある土地は、米軍の接収から解除されたばかりでした。また、戦争の傷跡が生々しく、家屋が点々と建てられ始めましたが、いたるところに草むらがある状況で、一面の荒野といった感じだったようです。

< 開校当時の教育目標 >

- 一 上品で礼儀正しい人
- 二 健康で明るい人
- 三 勤勉で責任を果たす人

< 二部（夜間学級） >

大田区は、戦後の社会的経済的な混乱期で、不就学者や長期欠席者が多かったため、その状況を憂慮して二部（夜間学級）を開設しました。

昭和28年6月の区立中学校の長期欠席生徒数は314名でした。そのうち、貧困で働いている者や家事手伝いをしているため登校できない者は、164名でした。糀谷中学校に開設した理由としては、戦災の影響が大きく、不就学者が海岸地域に多かったためと言われています。

開設当初は、150名を数えることもありましたが、以後は減少し、50数名から20数名の間で推移していたようです。

昭和51年5月には、二部専用の教室ができ、後に改築されて現在にいたっています。

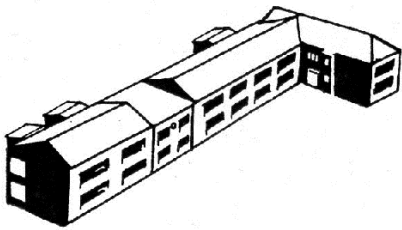
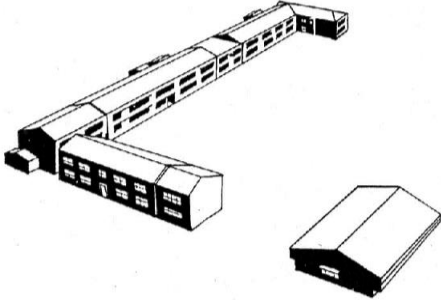
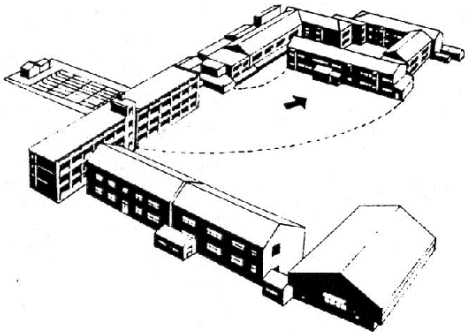
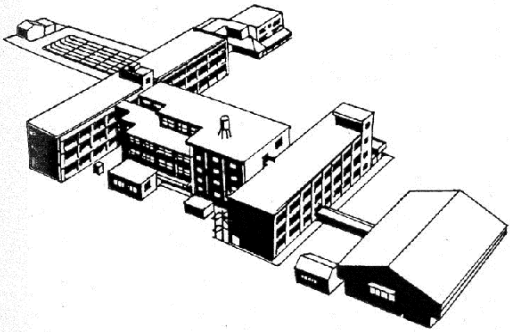
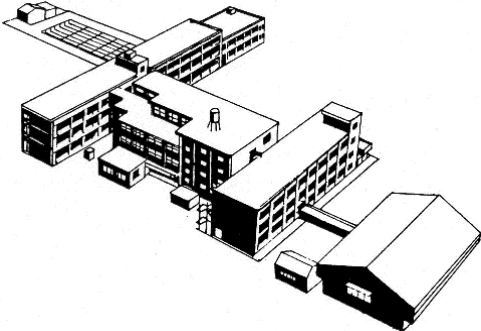
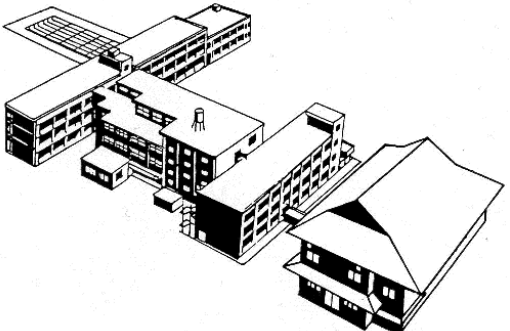
糀谷中学校の 誕生までの経過

昭和二八年に羽田、東蒲中学校の学区変更により新設されたものである。初代校長小林俊之助氏が任命されたときには、すでに二、三〇〇坪の校地が買収され建築が進められていた。同年七月に新校舎が上棟し工事が順調に進んでいたが、あいにくと、二回の台風に見舞われ、建築素材が値上りから、工事の進展に大きな支障をきたして、九月完成予定の校舎も大幅に遅れる破目にならざるを得なかったのである。

一方分離を予定されていた生徒は、東蒲中関係の教室不足のため、糀谷小と東糀谷小に間借りして授業を行い、九月一日には職員員の所属も決定し、一切の準備も進められて、校舎の完成をまつばかりとなった。十一月半ばごろ、九分どおりできたので、同月二十四日に生徒一、二、七、四、八名を迎え、学級数十三、職員三十三名で開校の運びとなったのである。

（大田区教育委員会『続・大田の学校（幼稚園・中学校）』昭和五二年三月三十一日）より

校舎のうつりかわり

昭和 2 8 年度（当時）	昭和 3 3 年度
	
	体育館の完成
昭和 4 6 年度	昭和 4 9 年度
	
北校舎（鉄筋）完成 （プールは昭和 3 6 年に完成）	現在の校舎のほとんどが完成 木造校舎を取り壊す
昭和 5 8 年度	平成 5 年度
	
北校舎増築	現在の姿（体育館改築は平成 3 年）



←昭和 4 8 年頃に撮影された航空写真です。現在の校舎がほぼ完成し、木造校舎もまだ取り壊す前が残っています。当時の学校周辺の様子も現在とは大分変わっていることが分かります。